学ぶ意欲を高め、思考力・判断力・表現力を育む授業づくり
～ 新聞活用による対話的活動の充実を通して ～

南魚沼市立中之島小学校

1　学校の概要

今年度の学級数は 8、児童数は 171 名である。学区は「中之島」の地名のとおり、南魚沼の正に「真ん中」に位置し、巻機山をはじめとする雄大な山々のパノラマを眺めることができる。また、コシヒカリ発祥の地としても知られる。

教育目標「すなおで　かしこく　たくましく」を受け、互いを認め合う心、ものごと深く考えようとする態度、進んで心身を鍛えようとする意欲を育むため、様々な活動に取り組んでいる。その一つが、地域の大きな協力をいただきながら、総合的な学習の時間や、生活科を中心に行う体験的な活動である。豊かな自然、日本一の米作りなどに直接ふれる活動は、子供たちの心を耕す。また、たくましい心身づくりを目標に、一年を通じて様々なスポーツにも親しむ。立地条件を生かし、特にスキーに積極的に取り組んでいる。

2　ＮＩＥ実践のねらい

（1）主題設定の理由

研究主題設定の基となった当校児童の実態として、下表結果がある。

平成 30 年度（NIE 開始前年度）末実施　児童自己評価（対象児童 全校 191 名）				
自分の考えを、しっかり書いたり、進んで話したりしているか。	よく している	だいたい している	あまり していない	していない
	29.2%	45.8%	23.8%	1.2%

上表のように、ＮＩＥ開始前年度（平成 30 年度）の児童自己評価においては、「自分の考えをしっかり書く、進んで話す」ことに対する肯定的評価の割合は高いと言える。

しかし一方で、職員による評価では、授業における「書く」、「話す」活動が、「他者との対話的な活動」に結び付かず、考えの整理や学びの深まりに十分につながっていないことが課題とされた。

この相反する結果は、例えば「教師の問いに対する単発的な回答」等の言わば「低次」の活動内容であっても、児童自身が「よくできた」として、肯定的に評価しているためであると考えられる。

視点を変えれば、教師が日常的に展開する授業内容が、児童の中の自己評価の基準を低いものにしてしまっていた結果とも言える。

そしてそれは、子供たちが自ら課題を発見し、思考を深め、判断し、適切な表現について考える活動や、仲間との学習の練り上げの中で学びの意欲を高める活動を、十分な時間確保の下に実践できていないことが大きな要因であるという結論に至った。

これらを受け、ＮＩＥを中心的なツールとした研究の推進によって課題解決を図り、(2)に示す「学びの姿」の実現をめざすこととし、標記研究主題を設定した。

(2) 目指す学びの姿

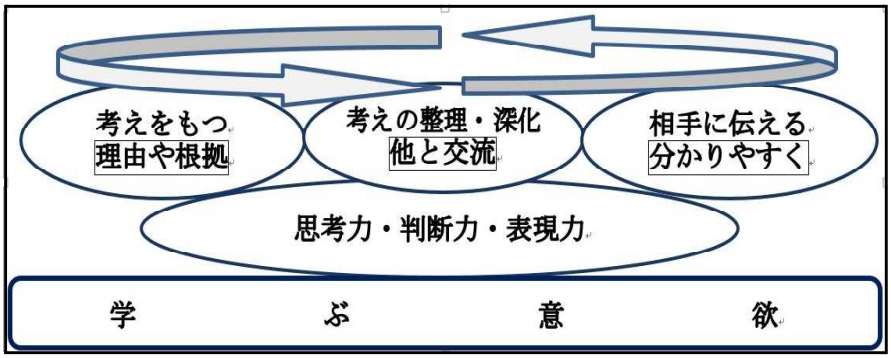
① 理由や根拠を明確に意識して自分の考えをもつ。

② 他者と交流しながら、自分の考えを整理し、深めていく。

③ 自分の考えや学んだことを、相手に分かりやすく伝えようとする。

①～③は、低次 → 高次という階層的な構造を成して、段階的に行われるということではない。

それぞれの活動が相互に関連し、往還することによって学びが深まる、いわば「スパイラル構造」である。



3　本年度実践の概要

(1)　授業研究

①　「個人研修計画」作成及び「一人一授業公開」

全員が「個人研修計画」を作成し、「めざす学びの姿」実現に向けた各自の具体的な手立てを明確にした。それを基に授業改善を進め、授業公開と研究会を実施した。

② 校外参加者を含む授業研究会（研究成果の発表を含む）（6 月、11 月）

校外の指導者に依頼し、指導案や授業に関する指導を受け、課題を明らかにした。

ア　中学校区授業研究会（5 年算数、3 年 国語）　6 月

イ　ＮＩＥ研究成果中間発表・研究会(6 年社会)　11 月

※ １か月前に、単元構想及び指導案検討会を実施

(2) 新聞を活用した教育活動（授業以外）

① モジュール時間の活用＝全校「ＮＩＥタイム」

週一回、朝の活動時間（約２０分）に、新聞を活用した活動を行った。新聞社が提供するワークシート、他校の実践も参考にした。学年によっては、授業の内容と関連付けた活動を行い、学習の深化を図ることができた。

② 家庭学習

自主的な学習内容の一つとして、授業やＮＩＥタイムで学んだことについて、更に調べたり、考えや感想をまとめること等を奨励した。

(3)　新聞に親しむ環境づくり

①　「ＮＩＥ」コーナー

図書室の一角に新聞を置き、児童がいつでも閲覧できるようにした。また、授業でも、調べ学習等で活用した。

②　「注目記事紹介」掲示版

廊下の掲示版等を利用し、２か所設置した。

１か所は児童向けの記事、もう１か所は一般向け記事に解説を加えたものを職員が用意し、随時掲示した。

(4)　各学年の授業実践

① 1学年　「『音』をさがしておはなしづくり」（国語）〔新聞活用型〕

ア　ねらい

新聞の4コマ漫画の絵や吹き出し、「音」を使って、文を作ることができる。

イ　授業の概要

a 4コマ漫画から、音（擬音）を探す。

b 1コマ目から4コマ目までの文を考える。

c グループ毎に発表し合い、友達のよいところを伝え合う。

ウ 成果

4コマ漫画は、ストーリー、絵、吹き出し、音があり、児童は場面をイメージしやすく、「お話作り」として取り組みやすく、意欲的に学習した。

② 2学年　「ものをくわしくすることば」（国語）〔新聞活用型〕

ア ねらい

新聞の 4 コマ漫画から「ものをくわしくすることば」を探す活動を通して、どういう言葉を使うと名詞を修飾することができるのかを理解し、自分でも使うことができる。

イ 授業の概要

a 4コマ漫画から、「ものを詳しくする言葉」を探す。

b 「詳しくする」には、色や様子を表す言葉を使うとよいことが分かる。

c 「ものを詳しくする言葉」を使って絵に描かれたものを説明する。

ウ成果

a 興味をもって、意欲的に「詳しくする言葉」を探した。

b 3種類の4コマ漫画を使ったことで、「詳しくする言葉」の分類や、その使い方への理解が深まった。

③ 3学年　「知ろう・伝えよう～見てきたことを新聞にまとめよう～」（国語）〔新聞作成型〕

ア ねらい

取材メモから、必要な情報を整理・分類し、「新聞」にまとめることができる。

イ 授業の概要

a 総合的な学習の時間と関連させ、果樹園で学んだことを「新聞」にまとめる。

b 新聞を活用して、割り付け等の構成のポイントをつかみ、読み手に分かりやすく「新聞」にまとめる。

ウ成果

新聞に色鉛筆を使って書き込みをするなど、その紙面構成について学ぶことで、よりよい「伝え方」に関する学習への意欲が高まった。

④ 4 学年　「チャレンジ！南魚沼のみ力発見！東京 2020 から考える南魚沼の環境」
（総合的な学習の時間）〔新聞活用型〕

ア ねらい

学習の主課題を意識しながら記事を読み、更に知りたいことや、識者等に聞きたいことを具体的に考え、意欲的に学習を進めることができる。

イ 授業の概要

a　新聞記事から、見出しを考え、主課題をつかむ。

b なぜ、雪国が「ダサいイメージ」「悩み」につながるのかを記事から考える。

c　オリンピックでの南魚沼の雪の活用を計画している人たちの思いを考える。

d　市役所の担当者に質問したいこと、更に調べたいことをまとめる。

e 調査を進め、まとめ、発表し合う。

ウ 成果

a　実生活に関わる記事を使い、学習活動を工夫したことで、学習意欲を高めることができた。

b「キーワード」を提示して、アンダーラインを引きながら記事を読ませるなど、情報収集の方法を具体的に指導したことで、考えの根拠を明確にして話合いを進めることができた。

⑤ 5 学年　「よりよい考え方はどっち」（国語）〔新聞活用型〕

ア ねらい

熊による人的被害、農業被害に関する記事と、熊の人里への出没は人間にも問題があるという新聞記事を活用し、「住宅地に出た熊は、駆除するべきであるかどうか」について、自分の意見を明確にもって、話し合うことができる。

イ 授業の概要

a 賛成・反対に分かれて意見をまとめた資料作りを行う。新聞記事を読み合い、自分たちの意見を主張する際の根拠として有効な記事を、相談しながら選ぶ。

b 完成した資料を掲示し、質問や反論を考える。

c 討論会を行う。

ウ 成果

賛成・反対の両方の視点からの記事を活用することで、主張を裏付けたり、強くしたりするとともに、多角的なものの見方について考えることができた。

⑥ 特別支援学級２学年　「もののかずをかぞえよう」（国語）〔新聞活用型〕

ア ねらい

ものによって助数詞が違うことに気付き、正しく数えることができる。

イ 授業の概要

a 新聞の見出しや記事から助数詞探しをする。

b 正しい数え方になるようにカードを並べる活動で、助数詞について理解する。

ウ 成果

読み取りやすい記事や見出しを活用することにより「数字の後ろ」に助数詞があることが分かり、身の回りにはたくさんの助数詞があることを、実感として学ぶことができた。

⑦ 特別支援学級４学年　「話を作り上げよう『これであなたも作家になれる』」（国語）〔新聞活用型〕

ア ねらい

４ コマ漫画を使って短いストーリーを考え、分かりやすく発表することができる。

イ 授業の概要

a 自分が考えたストーリーを発表する。

b　互いのよいところを褒め合う。（そのための時間を確保し、シールを使って相互評価を行う。）

c　別の４コマ漫画の「最後の一コマ」を考え、発表する。

ウ 成果

a 新聞への興味が高まり、他の記事に関しても話題にする機会が増えた。

b 積極的に友達のよさを見付け、伝え合う姿勢が高まった。

(5) 公開授業研究（ＮＩＥ研究成果中間発表・研究会）

① 学年　　6学年

② 教科・単元　　社会科・「世界の中の日本」全 15 時間　〔新聞活用型〕

③ 授業の実際

本単元は、「日本と世界のつながり」「日本とつながりのある国々」「世界の人々とともに生きる」の３つの小単元で構成されている。本時（第 9 時は、既習事項（世界が抱える様々な問題や未来の社会予測）を基に、将来の世界の平和や安全について自分なりの考えをもつことをねらいとし、「30 年後、世界は今より安全で平和になっ

ているか」というテーマについて考えた。

まず、自分の考えを「意思表示板」で学級全体に示し、考えの根拠や根拠のもとになった資料（新聞記事や写真等）を短冊型のカードに書いた。

次に、考えが近い児童同士の小グループに分かれて、話し合い、意見をまとめた。まとめた意見を学級全体で発表し合い、質疑も行った。

④ 本単元手立てについての成果と課題

ア 新聞活用の工夫

a ＮＩＥタイムの活用

小学生向け新聞の記事（１週間のニュースをまとめたもの）等を配付し、世の中の出来事や世界の国々に関心をもたせるようにした。クイズ等も取り入れ、興味をもって取り組ませることができた。

記事をじっくりと読み込む時間を確保することができれば、更に学びを深めることができたと考える。

b スクラップカードの活用

家庭学習として、時事問題や様々な国について取り上げている記事をカードに貼り、感想を書いたり、分からない言葉を調べたりした。感想を発表し合ったり、互いのカードを読み合う時間を十分確保すれば、対話的な活動にもつなげることができると考える。

c 「外国調べ」活動における、日本との国際関係が分かる資料の活用

その国の文化や習慣、日本とのかかわり、自然環境や政治・外交上の問題等を取り上げた記事をスクラップし、資料として、まとめのポスター作成時に活用した。記事について教師が丁寧に解説するなどできれば、自分たちの考えや疑問等をまとめる根拠として、更に有効に使うことができる。

d 世界の諸問題について関連する記事の活用

教師から、環境問題、紛争、災害、近年起きている事象や科学技術等の進歩等等に関する記事を提示した。ただし、与えた情報が過多となった感もあるので、見出しや写真だけを提示し、ニーズに応じて記事を選んで自分で調べるという方法も試みていきたい。

イ 主体的・対話的な学習活動（問題解決的な学習）を促す工夫

a 学習過程の工夫

単元を通して、以下のような学習過程を展開した。

1 学習問題を発見・設定する。

2 予想を立て、話合いにより追求の見通しをもつ。

3 調べる。
4 調べたことを整理・分析して予想が正しかったか考える。
5 まとめる。

本時の学習問題「30 年後の未来、世界は今より安全で平和になっているだろうか」が、子どもたちの思考に沿ったものであったかどうかについて検討の余地がある。学習問題の設定に関して更に考えていきたい。

b 対話的活動の工夫

2 の過程では、「意思表示板」を使用し、自分の考えを明確に示させた。その上で、考えの根拠を短冊型のカードに書き、考えが近い児童同士で小グループを編制した。グループ内で意見交換しながら話し合って意見をまとめ、それを学級全体で発表し合った。

様々な予想（根拠）に対する意見交換や質問を行うことによって、学級全体として、多様な意見を整理・統合し、「未来を予想する」という追求活動に対する見通しをもたせた。

一人一人が、自らの立場や根拠を明らかにして、意欲的に話合い活動に取り組むことができたと考える。小グループ内の話合いでは、異なる意見のグループの児童も含め、聞く側を納得させる発表を行うことを目標として、活発な意見交換が行われた。

終末では、学級全体の予想として「科学技術の進歩により、生活は便利で健康的になる。しかし、ＡＩなどによる科学の発達による事件や事故が増える可能性がある。また、食料や水にかかわる貧困、災害、地球温暖化などの様々な社会問題が解決されないかもしれない。」というまとめが行われた。

4 の過程においても、全員の考えをカードに書いて発表させ、意見や質問を行う活動を通して、考えを分類・整理し、それぞれの考えに対する理解を深めた。また、多角的な視点をもつことの重要性にも気付くことができた。

c 振り返りの 5 つの視点の工夫

- 何が分かって「よかった」と感じたか。
- どのように学んだり、考えたりして「よかった」と感じたか。
- だれのどんな考えが新たに分かって「よかった」と感じたか。
- 疑問に思ったことはどんなことか。
- これから学習したいことはどんなことか。

今後も、学習過程に応じて振り返りの視点を示しながら学習意欲を喚起したり、学びに向かう力（発展的な学習につなげる意欲や実生活における問題解決の力）を高めていきたい。

5　成果と課題

（1）新聞活用の工夫

新聞を活用した授業実践、モジュール時間を活用した全校一斉の「ＮＩＥタイム」、新聞に親しむ環境づくり（「ＮＩＥコーナー」や「注目記事紹介掲示板」等の取組）により、子どもたちにとって新聞が身近なものとなった。「ＮＩＥ コーナー」や「注目記事紹介掲示板」に足を止め、興味のある記事を探したり、話題となっている記事に見入っている姿が見られるようになった。

また、新聞を活用した授業実践では、各学年で児童の実態に合わせ、興味、関心を高めることにつながる記事を探し、学習内容と結び付けて活用した。このことが児童の学習意欲を十分高めたと考える。

今後は「課題設定」「話合い」「まとめ」など、学習過程のどの場面で、どう効果的に新聞を活用するかについての検討を進め、めざす「学びの姿」を実現したい。

（2）対話的活動の工夫

めざす学びの姿［前述 2(2)参照］の実現のために、話合い活動をどこでどのような形で設定していくかについて、工夫を加えながら授業実践を行ってきた。互いの考えを聞き合って考えの相違点を見付ける、友達の考えのよさに気付く、意見や質問をし合って自分の考えを見直す、新たな発想にたどり着くなど、発達段階に応じて、学びを深めることができた。

しかし、まだ日々の授業の中では、自分の考えを分かりやすく説明するスキルを向上させる必要を実感することが多い。また、多くのの児童が、自分の考えを発表することだけで精一杯になり、仲間の発言や発表を十分考察しながら聞くことができていないと感じる場面も多くある。

身に付けさせたい力を具体的な児童の姿として全教職員で共有し、実効性ある対応策を全校体制で進めることができるよう、具体的な手立てに更に工夫を加えながら、研究を推進していく。

（笛木　貴子）